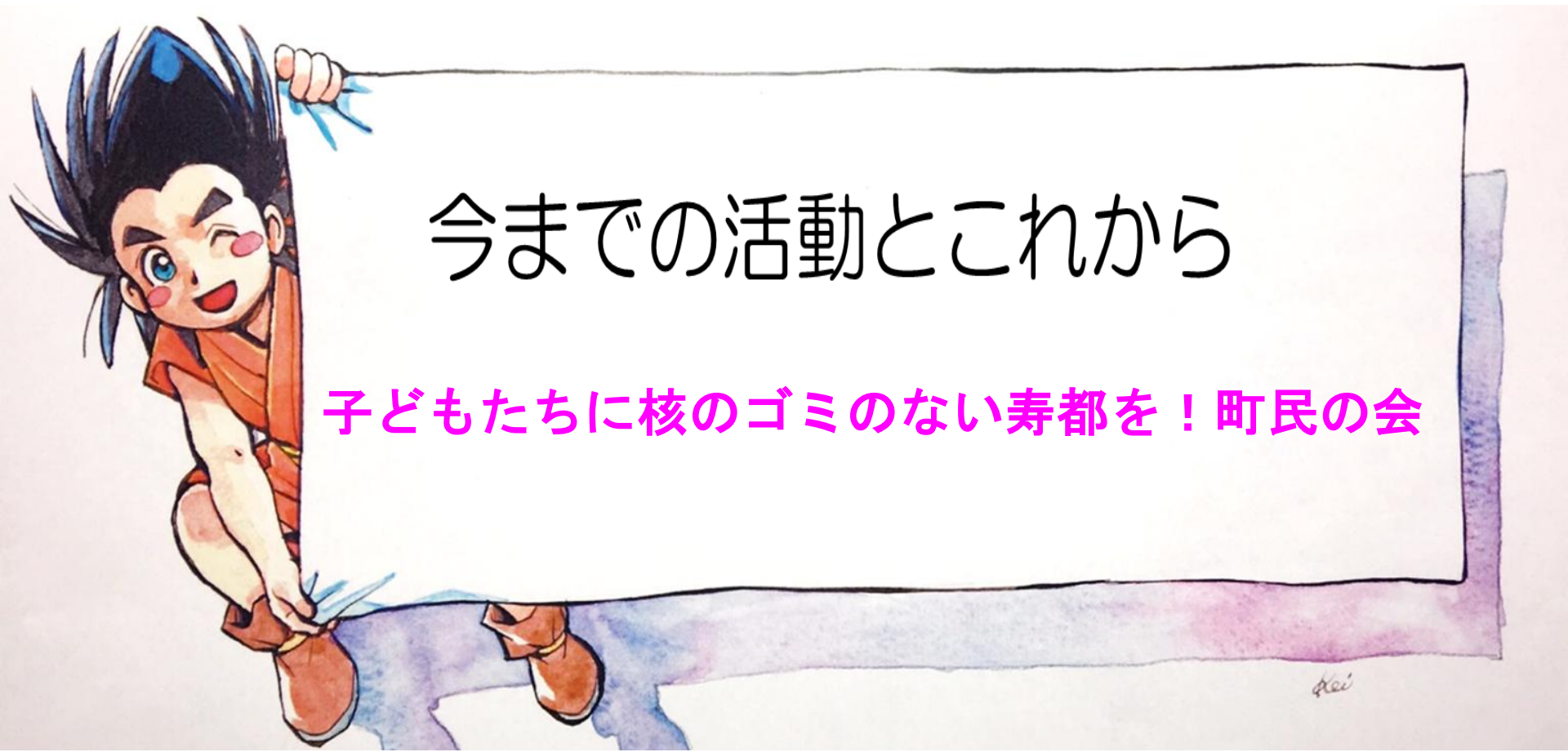


※ご注意
・この活動経緯では、**黒色は会の活動**、赤色は町長や町議会や他の市町村、青色は原子力発電環境整備機構（以下、NUMO）や他団体（NPO法人等）が行なったこととして、色で区分けしている。この資料では、**「高レベル放射性廃棄物」を「核ゴミ」「核のゴミ」等**と表現している。

第１期：2020年8月13日～10月8、9日
文献調査への応募検討の発覚～片岡町長の独断的応募

北海道新聞
2020年 8月13日 本紙は
核のごみ最終処分場
寿都町が調査応募検討
町長、財政見都えた
中道リース

- 2020年8月13日：北海道新聞朝刊一面トップに、寿都町が「核のゴミ最終処分場の調査に応募検討」と掲載。
- 2020年8月20日：寿都水産加工業協同組合青年部の有志が、「寿都に核のゴミはいらない町民の会」を立ち上げ文献調査の反対署名活動を開始。
- 2020年8月27日：町内695人分の反対署名を、片岡春雄町長に提出。
- 2020年9月3日：鈴木直道知事が寿都町を訪問し、片岡春雄町長と会談。鈴木知事は道条例の順守を要請、片岡町長は精密調査までと述べた。
- 2020年9月4日：「子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会」と改称。
- 2020年9月10日：町民の会が、はじめての記者会見を行う。
- 2020年同日：町役場による町民説明会が本町（文化センター）で行われる。寿都町民、263人が参加。

道、寿都町長に撤回要請
核ごみ処分場調査めぐり

第１期：2020年8月13日～10月8、9日
文献調査への応募検討の発覚～片岡町長の独断的応募

- 会の主な活動：声明文の発表、公開質問状の提出、全員協議会の情報公開請求など
- 2020年10月3日：原子力資料情報室の共同代表　伴英幸さんによる「地層処分の問題点は何か」講演会。
- 2020年10月7日：住民投票条例の制定を求める署名活動（実質3日間で222名の署名が得られ、のちに選管により217名が有効と認められた）、寿都町議会に住民投票条例の制定を求める請願提出（紹介議員4人）
- 2020年10月8、9日：片岡春雄町長が文献調査への応募を表明し、東京で応募書類を提出。

核ごみ処分場調査 応募表明

北海道・寿都町 きょう神恵内村も

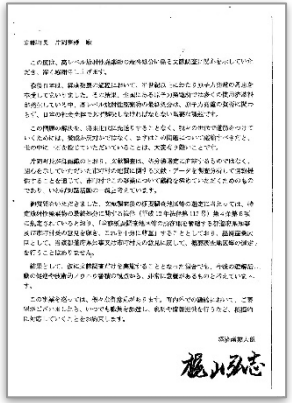
2年で最大20億円交付

広域避難 国が事

浸水想定時 政府

第２期：2020年10月10日～2021年10月26日
住民投票条例の在り方への駆け引き～町長選挙

- 2020年11月2日：NUMOが寿都町を対象として、文献調査を実施する事業計画を経済産業省に提出。
- 2020年11月3日：小泉純一郎元総理大臣が来町。『日本の歩むべき道』と題して講演。来場者430人。出席予定だった片岡春雄町長は無断欠席。
- 会の活動：NUMOの文献調査計画提出について、抗議文を郵送。経済産業大臣に対して受理しないよう要望書を郵送。議会全員協議会の議事録公開請求（二度目）に対して非開示通知。（後日、審査会も非開示を妥当）
- 2020年11月13日：寿都町議会にて住民投票条例案を採決。賛成議員4人、反対議員4人の同数となったため、小西正尚議長による裁決。小西議長が否決。寿都町議会が住民投票を求める請願を不採択。
- 2020年11月17日：経済産業省がNUMOに対して、寿都町における高レベル放射性廃棄物最終処分場の文献調査を実施する事業計画を認可。
- 2020年11月19日：NUMOと経済産業省に、抗議文を送付。



第２期：2020年10月10日～2021年10月26日
住民投票条例の在り方への駆け引き～町長選挙

- 2020年12月8日：「寿都町に放射性物質等を持ち込ませない条例」の制定を求める要望書を、寿都町議会に提出。近隣町村議会にて次々と「核抜き条例」が可決。寿都町は否決。
- 2021年1月7日：町民の会が、第1回くっちゃべる会を開催。その後、第2回以降も継続活動。
- 2021年2月5日：最終処分場の選定プロセスから完全に離脱する方法について、「法令で定めぬ」と政府が閣議決定。
- 2021年3月8日：寿都町本議会で、町長案の「寿都町における特定放射性廃棄物最終処分の概要調査及び精密調査に係る意見に関する住民投票条例」が成立。※しかし本条例は、「有権者50%以上の投票がないと開票しない」という内容！！
- 2021年3月26日：NUMOが寿都町に「交流センター」を設置。
- 会の活動：町民の会が映画「地球で最も安全な場所を探して」の上映会開催。活動報告のチラシを作成し、全戸配布など。

寿都核抜き条例案否決

議長に「理由説明を」の声

反対住民ら公開質問状

管内コロナ新たに3人

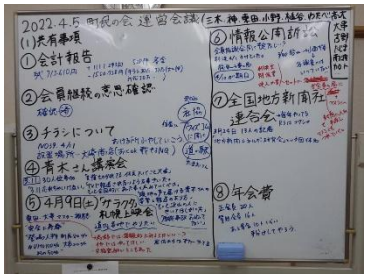
第２期：2020年10月10日～2021年10月26日
住民投票条例の在り方への駆け引き～町長選挙

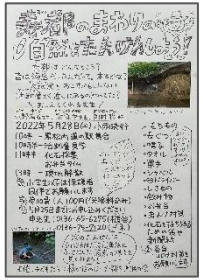
- 2021年4月30日：会員2人が、寿都町議会全員協議会の議事録の公開を求めて、函館地方裁判所に提訴。
- 2021年5月24日：文献調査反対の越前谷由樹町議会議員が、10月の町長選挙に立候補を表明。
- 2021年6月22日：寿都町議会全員協議会の議事録の公開を求めた訴訟、第一回意見陳述。
- 2021年7月1日～16日：町内各地区において、NUMOと役場による住民説明会。
- 会の活動：元高知県知事橋本大二郎氏の講演会、映画『地球でもっとも安全な場所を探して』上映会＆ミニ講演会、くっちゃべる会、その他多くの団体や個人との交流、チラシ配布。
- 2021年10月26日：寿都町長選挙で片岡春雄町長（1135票）が前町議会議員の越前谷由樹さん（900票）を破る。
- 2021年10月26日：寿都町議会議員補欠選挙では、文献調査撤回を公約とした吉野卓寿さん（1121票）が、文献調査に賛成する南嶋亘さん（884票）を破る。

これは選挙後援会の活動

第３期：2021年10月27日～2022年11月18日
議事録開示請求訴訟の勝利と概要調査への進行を阻止攻防

- 2022年2月25日：寿都町が2022年度予算案を発表。住民投票の予算は、計上されず。一般会計は、前年度当初費20.1%増の66億1200万円。特別養護老人ホーム「寿都寿海荘」建て替え補助金に、9億6000万円。歳入に、文献調査に伴う、国からの交付金9億2500万円を計上。
- 2022年3月11日：ジャーナリスト青木美希さんが寿都町で講演。
- 2022年3月15日：片岡春雄町長が第8回「対話の場」終了後の記者会見で、「文献調査と概要調査は一体で進めるべきだ」と述べ、概要調査に進みたい考えを示す。
- 2022年3月29日：寿都町議会全員協議会の議事録非開示、函館地裁が取り消しの判決。町情報公開条例に違反と判決が出る。
- 2022年3月30日：函館地裁の判決を受けて、控訴しないよう原告2名と代理人弁護士が町議会議長に申し入れ。
- 2022年4月27日：寿都町議会が全員協議会議事録を原告2名に開示。
- 2022年5月28日と6月26日：探検ツアーの実施。





第３期：2021年10月27日～2022年11月18日
議事録開示請求訴訟の勝利と概要調査への進行を阻止攻防

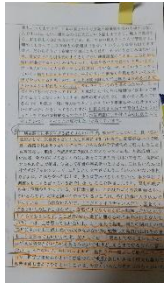
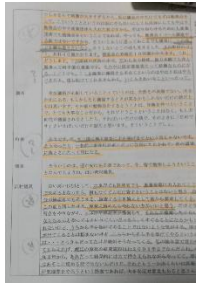
- 2022年4月8日：寿都町議会が函館地裁の判決を真摯に受け止めて控訴しないと発表。
- 2022年4月26日：片岡町長が、住民投票を行うのは来年度になるという考えを、報道陣に示す。
- 2022年4月27日：寿都町議会が全員協議会議事録を原告2名に開示。

→以降、全員協議会の議事録は請求すると開示される（有料）が、新たに「議員懇談会」が設置され、ここは最初から議事録を作らないと設定したので、新しい密室の場ができた。。。

- 7月「反原発全国首長会議」意見交換会、8月広島「ハチドリ舎」のオンライントーク企画の対応など。

→町内への働きかけも重要だが、町外へ寿都の現状を知らせる活動（講師、スピーチ、ヒアリングなどに対応する）にチカラを入れることにした。

- 例：核のゴミを考える全国交流会（幌延町）、地学団体研究会（全国オンライン）、日経ビジネスの取材、日弁連の人権擁護委員会全国大会（旭川市）、自由の森高等学校（埼玉県飯能市）ヒアリング、核ゴミ問題を考える北海道会議（札幌市）原子力資料情報室ヒアリング、など多数

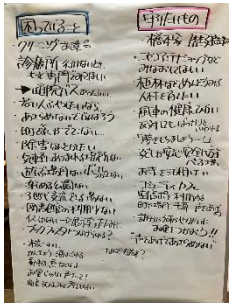
第３期：2021年10月27日～2022年11月18日
議事録開示請求訴訟の勝利と概要調査への進行を阻止攻防

- **NPO法人ハッピーロードネットによる、寿都高校生への交流事業『未来につなぐまちづくり塾』が展開され、広報すっつ9月号に掲載される。**

経緯：2022年8月7日から12日まで、NPO法人ハッピーロードネット主催による「未来につなぐまちづくり塾」が開催され、福島県浜通り地域の高校生と寿都町の高校生が相互に町を行き来し、地域の課題に向き合って将来について考えるための交流事業が行われた。そのことが、寿都町の広報誌「広報すっつ」９月号に掲載される。2023年2月に、NPO法人へ公開質問状を出したが、現在まで無回答。

- 2022年9月16日：くっちゃべる会を開催、21名（うち新しい方2名）の参加あり
- **9月15日：フランスのビュール、10月11日：ドイツのゴアレーベンから連帯メッセージが届く。**

→町内への理解も、少しづつだが広がっている
→町外へのPRが、世界に届いた！

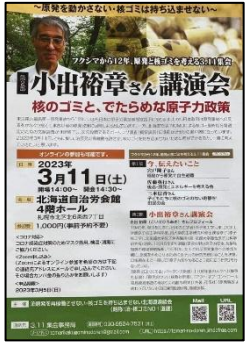


第４期：2022年11月18日～2024年5月10日
概要調査への阻止攻防、町内外での連携を模索

- **2022年11月18日：龍谷大学大島先生と一橋大学山下先生の勉強会を開催。推進派の参加もあり、大変有意義だった。**

→全国的な議論をすべきという専門家（研究者や弁護士など）が声を上げ、広がりを見せている。
→私たち自身が当初から、意見が違う方にも普通に接する、『町長のように「無視」しない』（大人げないことをしない、子どもたちに恥ずかしくない）行動を心がけた結果？

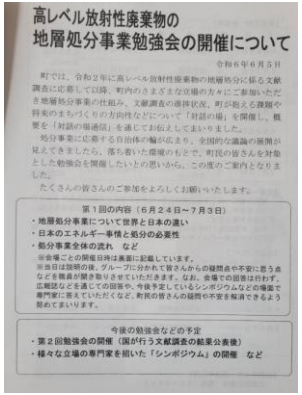
- 引き続き、**町外へのPR対応は活動（講師、スピーチ、ヒアリングなどに対応する）を続けた。**
- **2023年9月27日：長崎県対馬市で文献調査応募が持ち上がったが、対馬市長が反対「交付金では代えられぬ」**
- **2024年1月1日16時10分：能登半島地震が起こる（4メートル近い隆起）**
- **2024年5月10日：佐賀県玄海町が文献調査受け入れを表明！**



第５期：2024年5月10日～現在
第3の文献調査地の出現、概要調査への阻止攻防

- **2024年5月10日：佐賀県玄海町が、国からの文献調査受け入れを表明。議会との板挟みで、町長は「本当は手をあげたくなかった」**

- **2024年6月24日～7月：寿都町主催「高レベル放射性廃棄物の地層処分事業に係る勉強会」（第1回）が開催される。参加者はとても少なく、たくさんの質問の回答は、書面回答でHP掲載と広報折り込みとなった。**
- **2024年8月11日：ミランダ・シュラーズさん講演会・大島先生方のパネディスにて、「エネルギー政策を選ぶことは、民主主義であり、人権を守ることである」**
- **2024年11月15日：初めて、町主催のシンポ「専門家と考えよう　地層処分のこと」開催**
- **2024年11月19日：道新に「報告書が22日に提出！」**


高レベル放射性廃棄物の
地層処分事業勉強会の開催について

令和6年6月5日

町では、令和2年に高レベル放射性廃棄物の地層処分に係る文献調査に応募して以降、町内のさまざまな立場の方々にご参加いただき地層処分事業の仕組み、文献調査の進捗状況、町に起こる課題や将来のまちづくりの方向性などについて「対話の場」を開催し、概要を「対話の場通信」を通してお伝えしてまいりました。

処分事業に応募する自治体の輪が広まり、全国的な議論の展開が見えてきましたら、落ち着いた環境のもとで、町民の皆さんを対象とした勉強会を開催したいとの思いから、この度のご案内となりました。

たくさんの皆さんのご参加をよろしくお願いいたします。

第１回の内容（６月２４日～７月５日）
- 地層処分事業について世界と日本の違い
- 日本のエネルギー事情と処分の必要性
- 処分事業全体の流れ　など

※会場ごとの開催日時は裏面に記載しています。
※当日は説明の後、グループに分かれて皆さんからの疑問点や不安に思うことなどを職員が聞き取りさせていただきます。なお、会場での質疑は行わず、広報誌などを通じての回答や、今後予定しているシンポジウムなどの場で専門家に答えていただくなど、参加者の皆さんの疑問や不安を解消できるよう努めてまいります。

今後の勉強会などの予定
- 第２回勉強会の開催（国が行う文献調査の結果公表後）
- 様々な立場の専門家を招いた「シンポジウム」の開催　など

学生向け特別講習のお知らせ

ミランダシュラーズさんに聞く
再エネ・原発・地層処分の質問会

ドイツでは原子力発電をやめて電気代が上がったの？
太陽光発電や、風力発電で電気はまかなえるの？
自然再生エネルギーで若者はどんな仕事ができるの？

寿都町で話題になっている陸上・洋上風力発電や、核のゴミの地層処分の問題について、どのように話し合ったら良いのでしょうか？今回、ドイツでエネルギー転換が進んだ時、国の審議会などを歴任した先生が寿都町にいらっしゃいます。そして、学生向けに優しく答えてくれることになりました！普段、先生にも聞きにくかった素朴な質問を、ぜひ相談してみましょう！

【先生の紹介】ミランダ シュラーズさん
- ドイツミュンヘン工科大学 教授
- 日本に5年いた事があり日本語で話してできる。
- 2018年に福島県の高校生たちとの対話を経験。
- 地質的に安定なドイツでの地層処分の議論に国民参画を呼び掛ける代表者の一人です。

2024年 8/9（金） 開始/15：00～16:30
寿都町総合文化センター　ウィズコム2F会議室

世話人：大中伸吾　斉藤孝司
問合せ：rec_fishing_study@yahoo.co.jp 080-6525-1581（大中）

★先生方も参加歓迎★

ドイツに学ぶ
日本語講演

地域のエネルギー転換と
地層処分の国民参画

~ドイツ ミュンヘン工科大学 教授~
ミランダ・シュラーズさん
講演会

2024年
8/11（日）
入場無料　開場/13：00
開演/13：30～16:00

寿都町での調査の賛否を問わず、
先行事例の教訓に理解を深める機会です。

寿都町総合文化センター　ウィズコム 1F大ホール

主催：子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会
協 力：本企画はJSPS科研費JP23K28294及び高木基金の助成を受けています。
問合せ：kokugomino@gmail.com

詳細は裏面へ

～ 寿都町主催シンポジウム　シリーズ第1回 ～

専門家と考えよう
地層処分のこと

文献調査が始まって以来、町民の皆様から多くの質問があり、
その中で国家に二重見を含む多様な専門家の見解を聞きたいとの
要望があったため、様々な観点からの意見や考え方について多くの
皆様にふれていただくことを目的として、シンポジウムを開催します。

入場無料

2024 令和6年 11/15（金） 18:30 ～ 20:30(予定)
【開場 18:00～】

○ 会　場：総合文化センター ウィズコム 大ホール
○ 対　象：寿都町にお住まいの方（参加あり（申請は裏面））
※対象外の参加とされる方は事前までにお問い合わせ下さい。
○ 主　催：寿都町（後援：非子力発電環境改善機構(NUMO)）

パネリスト
ファシリテーター
伊藤 聡子 氏
吉田 修子 氏

問合せ先　【企画課企画係】TEL 0136-62-2608　FAX 0136-62-3431

※シンポジウムの開催後は質疑応答に移ります。質疑応答は、パネリストへの一般質問とします。
※質疑応答は、パネリストへの一般質問とパネリスト同士の議論を中心とします。参加者同士の意見交換や議論は実施しません。
※当日は、パネリストへの質疑応答時間の確保のため、参加者同士の意見交換や議論は実施しません。ご理解ください。

1　16版　2024年（令和6年）1

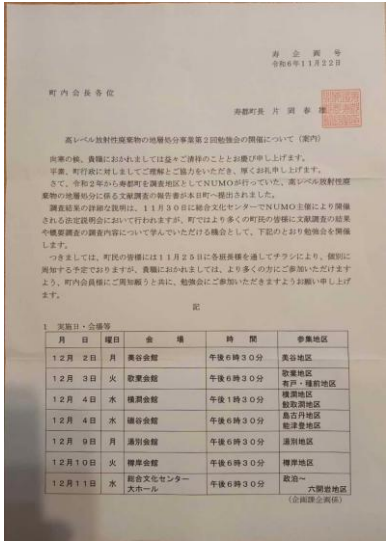
寿都・神恵内の文献調査
報告書22日にも提出
NUMO

原発から出る高レベル放射性廃棄物（核のごみ）の最終処分場選定に向け、後志管内寿都町と神恵内村で第1段階の文献調査を行っている国と、両自治体の文献調査を行っている国と、両自治体の文献調査を行っている国と、両自治体

第５期：2024年5月10日～現在
第3の文献調査地の出現、概要調査への阻止攻防

- **2024年11月22日：文献調査報告書が、NUMOから寿都町役場に提出される。**
- **同日：NUMOより、寿都町で1回、神恵内村で4回の住民説明会を入れた、道内の住民説明会の日程などが公開される。https://www.numo.or.jp/chisoushobun/survey_status/#inspection**

- **2024年12月2日～11日：寿都町主催「高レベル放射性廃棄物の地層処分事業に係る勉強会」（第2回）が開催されると、チラシが配布される。**



寿企調号
令和6年11月22日

町内会長各位

寿都町長 片岡春雄

高レベル放射性廃棄物の地層処分事業第２回勉強会の開催について（案内）

向寒の候、貴職におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素、町行政に対しまして格別のご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。
さて、今和２年から寿都町を調査地区としてNUMOが行っていた、高レベル放射性廃棄物の地層処分に係る文献調査の報告書がＲＯＲ～提出されました。
調査結果の詳細な説明は、１１月３０日に総合文化センターでNUMO主催により開催される法定説明会において行われますが、町では より多くの町民の皆様に文献調査の結果や概要調査の調査内容について学んでいただける機会として、下記のとおり勉強会を開催します。
つきましては、町民の皆様には１１月２５日に各班長様を通して チラシにより、個別に周知する予定でおりますが、貴職におかれましては、より多くの方にご参加いただけますよう、町内会員様にご周知 もうと共に、勉強会にご参加いただきますようお願い申し上げます。

記

1　実施日・会場等

月	日	曜日	会　場	時　間	参集地区
１２月	２日	月	美谷会館	午後６時３０分	美谷地区
１２月	３日	火	歌棄会館	午後６時３０分	歌棄地区 有戸・種前地区
１２月	４日	水	磯谷会館	午後１時３０分	磯間地区 鮫取潮地区
１２月	４日	水	磯谷会館	午後６時３０分	島古丹地区 能津登地区
１２月	９日	月	湯別会館	午後６時３０分	湯別地区
１２月１０日		火	樽岸会館	午後６時３０分	樽岸地区
１２月１１日		水	総合文化センター 大ホール	午後６時３０分	政泊～　六開岱地区

（企画課企画係）

2023年度　NUMO関係の監視活動

●「対話の場」(町とNUMOが主催)：2023年度内は、計２回の開催のみ

・2023年5月9日 対話の場（第16回）、2023年9月5日 対話の場（第17回）を開催

●「まちの将来に向けた勉強会」（NUMOが主催）：2023年度内は、計２回の開催のみ

・2023年6月5日 町の将来に向けた勉強会（第16回）、2023年9月12日 町の将来に向けた勉強会（第17回）を開催

2024年度　現在の状況

- **2024年6月4日：5人の町民が「対話の振り返りと称するインタビュー」に対して、意見書を提出する。**
- **2024年7月19日：「核のごみに関する対話を考える市民プロジェクト」が、特定放射性廃棄物小委員会委員への要望書と見解を提出する。**
- **2024年11月6日：NUMOが謝罪に来町**

2024年（令和6年）11月8日（金曜日）

NUMO 寿都町民に謝罪

「対話の場」意見聴取巡り

核のごみ どこへ

強盗実行役に無期懲役

東京・狛江 地裁支部判決

2023年度　会の活動として継続的に展開中

●会のホームページやＦＡＣＥＢＯＯＫの管理運営をし、活動をＰＲをした。

●毎月一回の運営会議を開催し、会の活動について協議している。

●会の振込用紙の印刷、募金箱の作成などを行ない、道内・町内各所に設置。

●活動報告や意見などのチラシ（会報）作成（新聞折込＋ボランティアによる配布）をし、2023年度は48号～55号まで発行した。道内への配布にも、他団体からの協力をもらう。（現在も、継続的に発行中）

●町内への活動啓発掲示ポスターの貼り出しを継続。

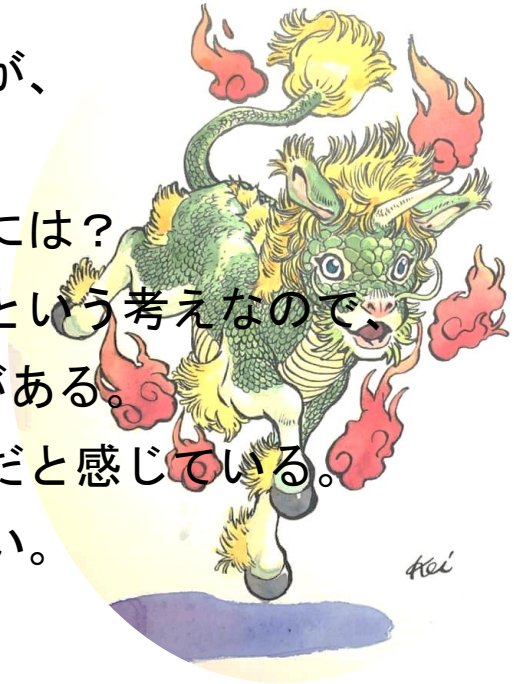
●講師やヒアリング依頼などが増えたので、講師依頼用のチェックリストとヒアリング対応のチェックリストを活用した。

●町内外、道内外の支援者・他団体・専門家などとの連携を深め、活動を深く且つ広がりを持つように、会メンバーそれぞれが、情報収集と情報共有に努めた。例えば、寄付金をいただいた方々への感謝の手紙や会報の郵送作業、専門家や活動家などとの交流や意見交換、暮らしを支える役目から見た、忌憚のない率直な現状報告をするなど。

ぜひ、当会のHPをご覧ください！

私たちの活動の課題

- さまざまな活動をするマンパワーが不足している。集まるのは同じ人？
- 会の活動資金が不足してきた。
- 核ゴミの前に「寿都町がどうありたいか？」を話したいが、
  町民が分断している。
- 「概要調査はダメだ」と言っていた町民を仲間に入れるには？
- 「最終処分場は来ない（町長談）」「交付金がほしい」という考えなので、
  単純な（反原発or反核ゴミ）賛成VS反対ではない構図がある。
- 反対派のオジサン達の「学生運動的なやり方」ではダメだと感じている。
- 子どもたち、、、小中高生やママさんも話せる場が欲しい。



これからの活動内容（2024年度の基本方針）

- 文献調査報告書の内容とその取りまとめ方法や進め方などについて、町民としての調査・研究、意見を伝えていく活動を行なう。

- 概要調査の前に、必ず住民投票を行ってほしいので、そのための活動をおこなう。概要調査に反対していた町民へ問いかける活動は、大変厳しい活動になると思われるが、前向きにできることをやっていく。

- 寿都町民内での賛否を超えた対話の場を、町民の会らしい方法で進めていく。

- 道内外の団体や専門家の協力の元、寿都町で起きていることを、
  できるだけ自分達らしい方法と言葉で、全国や世界へ発信していく。

皆様へお願いしたいこと

- この問題は、寿都町民だけが苦しむことではないし、押し付けられることではない。しかし、最終処分法の立て付けは、そのようになっているという現実がある。
- いずれも国民の税金を使うことなので、全国民の問題であり、国側の考え方や進め方を、今以上に確認や整理をした上で、調査や議論をすべきことだと考えている。
- 「交付金が欲しい、もらえる」と、「地層処分による最終処分場への調査受け入れ」は、全く別な問題なのに、同じ土俵で話されていることへの強い違和感。意見交換にならない。

- 私たちは、片岡町長や国が仕掛ける分断に耐えて、それを超えて、町内で反対派も賛成派も中立派も、

  よく分からないという方々も、子どもも交えて「どんな寿都町にしたいのか？」という対話をしたい。
- 原子力行政の「モラルハザード」（道徳や倫理の欠如）が起こっている、寿都町の現状を知らせてほしい。
- 皆さんが住む場所で（原発反対派だけではなく）、この法律の在り方（進め方）と、

  核ゴミの最終処分場について、国民的議論の必要性を伝えてほしい。

  そして、小さくても良いので、「対話や議論の場」を始めてほしい。

聞いていただき、ありがとうございました。